

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平5-250389

(43)公開日 平成5年(1993)9月28日

(51)Int.Cl.
G 0 6 F 15/21識別記号 庁内整理番号
3 4 0 B 7218-5L

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数2(全4頁)

(21)出願番号 特願平4-38935

(22)出願日 平成4年(1992)2月26日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 戸井 一夫

東京都港区芝五丁目7番1号日本電気株式

会社内

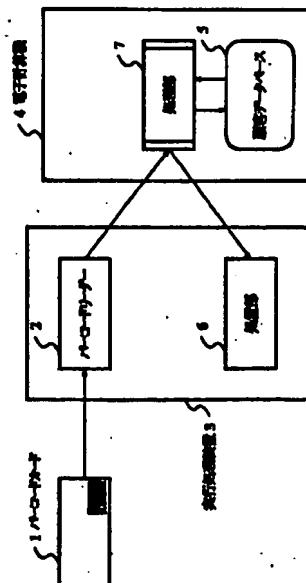
(74)代理人 弁理士 京本 直樹 (外2名)

(54)【発明の名称】 顧客認識方式

(57)【要約】

【構成】 顧客情報をバーコードで印字したバーコードカードを顧客に対して発行し、一方、この顧客情報をデータベースに登録しておき、顧客からバーコードカードの提示があったとき、そのバーコードカードをバーコードリーダーに読み取らせて電子計算機に入力し、電子計算機においてバーコードリーダーから入力した顧客情報とデータベースに登録しておいた顧客情報を照合することによって顧客を認識する。

【効果】 バーコードカードをカードケースに入れたままでバーコードリーダーに読み取らせることができ、カードをカードケースから出す煩わしさを無くすことができる。また外部からの強い磁気によってカードに記録してある情報が損われることがないため、信頼性を向上させることができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 顧客情報をバーコードで印字したバーコードカードを顧客に対して発行し、前記顧客情報をデータベースに登録しておき、顧客から前記バーコードカードの提示があったとき、前記バーコードカードをバーコードリーダーに読み取らせて電子計算機に入力し、前記電子計算機において前記バーコードリーダーから入力した顧客情報と前記データベースに登録しておいた顧客情報を照合することによって正当な顧客であるか否かを認識することを含むことを特徴とする顧客認識方式。

【請求項2】 顧客番号をバーコードで印字したバーコードカードを顧客に対して発行し、前記顧客番号をデータベースに登録しておき、顧客から前記バーコードカードの提示があったとき、前記バーコードカードを実行処理装置に設けたバーコードリーダーに読み取らせて電子計算機に入力し、前記電子計算機において前記バーコードリーダーから入力した顧客番号と前記データベースに登録しておいた顧客番号とを照合することによって正当な顧客であるか否かを認識することを含むことを特徴とする顧客認識方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、来客を正しい顧客と判断するための顧客認識方式に関する。

【0002】

【従来の技術】 図3は従来の顧客認識方式の一例に使用されている磁気カードとそれを読み取る磁気リーダーとを示す正面図である。

【0003】 来客を正しい顧客と判断するための従来の顧客認識方式は、鉄道の乗車券や定期券に採用しているように、必要な情報を磁気的に記録している磁気カードを用い、図3に示すように、磁気カード6を磁気カードリーダー7に読み取らせて正しい顧客であるか否かの判断を行っている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 上述したような従来の顧客認識方式では、顧客を認識するための情報を磁気的に読み取らなければならないが、磁気的に記録している情報を読み取るときは、図3に示すように、磁気カードを磁気カードリーダーに接触させて読み取る必要があり、このため、磁気カードをカードケースから出して磁気カードリーダーに挿入しなければならないという煩わしさがある。また、外部からの強い磁気によって磁気カードに記録してある情報が損われることがあるという欠点も有している。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明の顧客認識方式は、顧客番号をバーコードで印字したバーコードカードを顧客に対して発行し、前記顧客番号をデータベースに登録しておき、顧客から前記バーコードカードの提示が

あったとき、前記バーコードカードをバーコードリーダーに読み取らせて電子計算機に入力し、前記電子計算機において前記バーコードリーダーから入力したバーコードと前記データベースに登録しておいたバーコードとを照合することによって顧客を認識することを含んでいる。

【0006】

【実施例】 次に、本発明の実施例について図面を参照して説明する。

【0007】 図1は本発明の一実施例を示す模式図、図2は図1の実施例に使用するバーコードカードとそれを読み取るバーコードリーダーとを示す正面図である。

【0008】 図1の顧客認識方式は、例えば鉄道の自動改札において顧客を確認するときの顧客認識方式である。この顧客認識方式は、バーコードカード1と、バーコードカード1を読み取るためのバーコードリーダー2を付設した実行処理装置3と、バーコードリーダー2から情報を入力して顧客データベース5に登録してある顧客情報を照合する電子計算機4とを使用する。

【0009】 鉄道会社は、顧客の要求によって顧客番号等をバーコードで印字した乗車券や定期券等のバーコードカード1を発行する。このとき、このバーコードの情報

情報を電子計算機4に入力し、処理部7を介して顧客データベース5に登録しておく。顧客が乗車を希望するとき、このバーコードカード1を実行処理装置3に示し、バーコードリーダー2によってそれに印字されているバーコードを読み取らせる。バーコードリーダー2によるバーコードの読み取りは、光学的に行われるため、図2に示すように、バーコードカード1をバーコードリーダー2に接触させて読み取る必要ではなく、従ってバーコードカード1をカードケースに入れたままでバーコードリーダーに読み取らせることができる。バーコードリーダー2が読み取ったバーコードの情報は、電子計算機4に送られ、電子計算機4は、処理部7に内蔵しているプログラムによって顧客データベース5に登録してある情報と照合し、バーコードカード1を持参した顧客が正当な顧客であるか否かを判断する。電子計算機4による判断結果は、実行処理装置3に伝達され、実行処理装置3は、例えば顧客が正当な顧客でないと判断したとき、処置部6によって通路を遮断する等の処置を行う。

【0010】

【発明の効果】 以上説明したように、本発明の顧客認識方式は、顧客情報をバーコードで印字したバーコードカードを顧客に対して発行し、一方、この顧客情報をデータベースに登録しておき、顧客からバーコードカードの提示があったとき、そのバーコードカードをバーコードリーダーに読み取らせて電子計算機に入力し、電子計算機においてバーコードリーダーから入力した顧客情報をデータベースに登録しておいた顧客情報を照合することによって顧客を認識することにより、バーコードカードをカードケースに入れたままでバーコードリーダーに読み

取らせることができ、カードをカードケースから出す煩わしさを無くすことができるという効果がある。また外部からの強い磁気によってカードに記録してある情報が損われることがないため、信頼性を向上させることができるという効果もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す模式図である。

【図2】図1の実施例に使用するバーコードカードとそれを読取るバーコードリーダーとを示す正面図である。

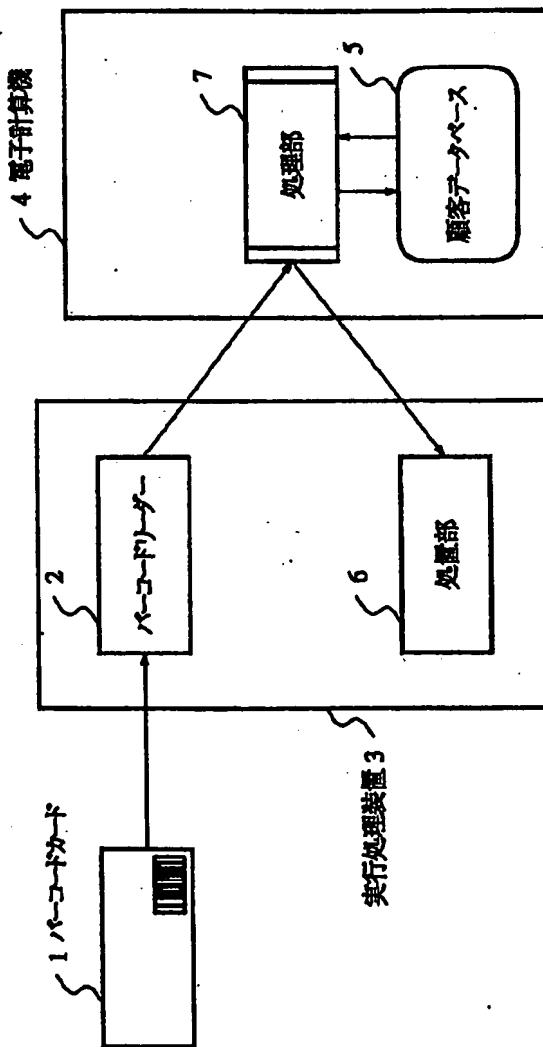
【図3】従来の顧客認識方式の一例に使用されている磁気カードとそれを読取る磁気リーダーとを示す正面図である。

気カードとそれを読取る磁気リーダーとを示す正面図である。

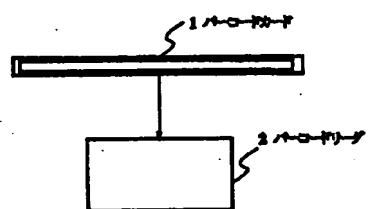
【符号の説明】

- | | |
|---|-----------|
| 1 | バーコードカード |
| 2 | バーコードリーダー |
| 3 | 実行処理装置 |
| 4 | 電子計算機 |
| 5 | 顧客データベース |
| 6 | 処置部 |
| 7 | 処理部 |

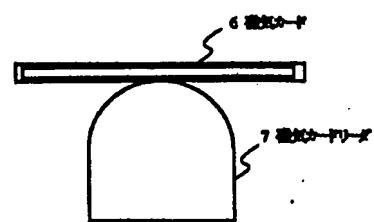
【図1】



[図2]



[図3]



BEST AVAILABLE COPY